

2026 年度 第 3 回 (通算第 13 回) 地域審判トレーニングセンター
レフェリーアカデミー【北海道】 事業報告書

報告者：高橋 陽斗 (十勝地区)

【日 時】2026 年 6 月 6 日 (土) 6 月 7 日 (日)

【場 所】札幌サッカーアミューズメントパーク、札幌市厚別公園競技場

【参加者】審判員：伊藤唯翔、二谷夢翔、鈴木辰汰、高橋陽斗

インストラクター：古曾部統太郎氏 (RAM) 今川一輔氏 (RAI) 岡田渉氏 (RAI)

オブザーバー：増田裕之氏 (育成グループ)

【テーマ】「学んだことを実践する」

6 月 6 日 (土)

7:50 集合 札幌サッカーアミューズメントパーク

9:00 試合実践① 2026 全国クラブチームサッカー選手権大会 札幌ブロック予選

SOC. 10th vs 札幌北大クラブ R：高橋 A1：二谷

〈自己分析〉

試合を通して、プレーや言動で不自然に感じた時には見て見ぬふりをせずにマネジメントを行おうと思って臨んだ。前回 (昨年) のアカデミー活動での 1 種の試合では選手たちに言わせすぎてゲームマネジメントを自分で難しくしてしまったが、今回は自分が主導権を握るマネジメントができたと感じ、成長を実感できた。ただし、判定に関して、アドバンテージの適用や、警告の基準などの課題が出たので、映像で整理して次回以降に役立てたい。

〈INS 分析〉担当 INS：古曾部 RAM

北海道大会進出がかかる両チーム熱量の高い試合でした。1 種の試合経験が豊富とは言えない中、落ち着き、毅然さを感じました。この試合を通してまた経験値が上がったことと思います。この試合の課題は「懲戒罰の基準」と「アドバンテージの適用」です。いずれも、争点だけでなく事前



に周囲の状況を把握することが解決の 1 つの方法となると思います。また、ロールバックは確かに競技規則で認められている対応ですが、アドバンテージの適用を焦って行うことなく状況を整理して適用できれば、頻繁にロールバックすることもないです。

11:00 試合実践② 2026 全国クラブチームサッカー選手権大会 札幌ブロック予選

FC. VLEA vs アンフィニ VANKEI. FC R：鈴木 A1：岡田 RAI

〈自己分析〉

今回の試合では、タフなプレーを促すことを意識した判定基準を考えて臨んだが、後半終了間際に相

手競技者を押さえる反則を見極めることができず、最後の最後でゲームマネジメントを難しくしてしまったことは反省すべき点であった。しかし、そこまでは大きな混乱もなく試合を運営することができたことは、自分自身の成長を感じた点であった。

〈INS 分析〉担当 INS：今川 RAI

落ち着いた雰囲気での試合をマネジメントしていた印象です。また、動き出しやスプリント力も良いパフォーマンスでした。

① 相手競技者を押さえる反則の理解を深める。反則をとらない、とれない、アドバンテージを適用しないことから重大なインシデントに発展する可能性を理解する。

② 事象ごとに監視すべきこと優先すべきことを素早く理解、整理して、ポジション修正を行うこと。2点を課題として次回以降の試合に役立ててください。

13:00 昼食・試合振り返り

14:30 競技規則講義 担当：古曾部 RAI

本講義では、最近の試合で起こった KI（キーインシデント）についての共有とともに KI を落とさないためにはどのような観点から事象を監視すれば良いのか RAC 生、RAM、RAI で「KI を判定する時の基本」をまとめた。KI とは具体的にどのようなものがあるのか、それぞれの KI を判定する上で落とせないポイントとそれを観るためにはどのように考えれば良いのかを学ぶことができた。一番大切なことは、どんな反則が起こる可能性があるか想定・予測し、それを監視するためにポジションを絶えず修正していくことと気付いた。



15:10 技術と審判の協調 担当：増田裕之氏（育成グループ）

本講義では、サッカー指導者 A 級ジェネラル保持者で強化指定審判員である増田氏にサッカーの技術的な面について講義をしていただいた。

- ① サッカーの 4 局面と攻撃、守備の原則
- ② 3 つの状況（ボール状況・数的状況・ゾーンの状況）
- ③ フォーメーションによるメリット
- ④ 守備を崩すためには、崩されないためには

など、サッカーをより理解するための貴重な視点を知ることができた。講義終盤では実際の試合映像（二谷さんが主審をした昨年の試合）を用いて、どうして守備は崩されたのか、攻撃はうまくいったのか講義で学んだことを確認することができた。この講義で学んだことを実際のゲームの中で、予期予測の精度の向上などに活かしたい。

16:50 諸連絡・解散

6 月 7 日（日）

9:20 集合 札幌市厚別公園競技場

11:00 試合実践③ 2026 札幌・道央ブロックリーグ

SOCCL. 10th vs YUTO. SC R：伊藤 A1：鈴木



〈自己分析〉

今回は、大きな判定ミス無くそうと目標を立てて、ミスなく試合を終わらせることができた。試合序盤、ノーマルフットボールコンタクトと判断した接触に対しファウルのアピールが続いたことから、自分の基準と競技者の基準に違和感を感じたが、基準を変えることなく進めると両チームの競技者が基準に合わせてプレーをしてくれたと感じた。いい成功体験となった。また、判定に対するアピールが多い競技者に対しても聞かないフリをせずに対応できたことは、自分自身の成長を感じた。一方、ドクターを入れるべきところ、担架を入れるべきところで決断が遅くなって時間をかけ過ぎてしまったため、スムーズに主審として主導権を握って負傷対応を進めていくことが課題となった。

〈INS 分析〉担当 INS：今川 RAI

両チームとも試合開始から熱量が上がっている状態にも関わらず、主審として冷静かつ毅然にマネジメントしていたことが、この試合を無事に終えた要因の1つと感じました。熱量の高い競技者に対して一緒になって熱くならず冷静にマネジメントしていました。

① 試合会場の規模(今回はスタジアム)や天候で表現の仕方を変える。もっと声を大きく。

② 怪我人の対応時間を主審としてリーダーシップをとり、短くする努力を行う。

2点が課題として見られましたので、次の試合ですぐに改善してください。

14:00 試合実践④

アミーゴ千歳 vs アンフィニ VANKEI.FC R：二谷 AI：高橋

〈自己分析〉

ペナルティエリア内事象を正しく見極めるために常にポジションを修正することを目標とした。おおむねはっきりと事象を監視できたが、予測が遅れてポジション修正が遅れたこともあった。また、ポジショニングと動きについては、特に前半は自分が競技者の邪魔になっていたり、パスコースに入ったりすることがあった。両チームのボールの動かし方を把握するのに時間がかかり、予期予測がうまくいかないこともあった。後半は修正できたが、前半から自分で気付いて修正できるように前日の増田氏の講義で学んだサッカー理解を生かしていきたい。

〈INS 分析〉担当 INS：岡田 RAI

反則が少なく大差がついた試合ではあったが、90分集中力を保ちレフェリングしていたことは良かったです。課題は自己分析の通りポジショニングと動きになります。なぜうまく動けたか、なぜうまく動けなかったか、感覚だけでなく言語化できるようになると、再現性が増します。一方、日頃セットにならない審判員とも積極的にコミュニケーションを取っていたことは人間的な成長を感じ取れました。リーダーシップを感じた日となりました。

16:00 試合振り返り

16:40 諸連絡・解散

